

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	たかさきしりつたかさきけいざい だいがくふぞくこうとうがっこう				②所在都道府県	群馬県
26～30	①学校名	高崎市立高崎経済大学附属高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 在籍者総数 833名 (平成25年)	
普通科	281	279	273		833	1年 (普通コース: 男 115名、女 133名) (芸術コース: 男 4名、女 29名)	
(文系オーナー)	(25)	(41)	(39)		(105)	2年 (普通コース: 男 126名、女 125名) (芸術コース: 男 4名、女 24名)	
						3年 (普通コース: 男 119名、女 122名) (芸術コース: 男 4名、女 28名)	
⑥研究開発構想名	高・大・産連携による日本を牽引するグローバル・リーダーの基盤づくり						
⑦研究開発の概要	<p>(1) 主に文系オーナークラスを対象に、課題研究「日本企業の海外戦略」を通してグローバル・リーダーとして必要な能力を高・大・産連携により身に付けさせる。</p> <p>(2) 従前の取組を基盤に高・大・産連携を深化させ課題研究の質の向上を図る。</p> <p>(3) 複数の高経大教員がこの課題研究に関わることで大学での学びに必要な高校生の能力、及び評価方法を開発する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校、高崎経済大学（以下「高経大」という）、「経営支援NPOクラブ」（一部上場企業退職者がメンバー。以下「経営支援クラブ」という）、民間企業と連携して、体系的に行う本校の課題研究「日本企業の海外戦略」を文系オーナークラスの生徒（以下「文系オーナー」という）を対象に、取り組ませることで、グローバル・リーダーに必要な能力と考えている「自分の考えを持った上で、異なる考え方を受け入れて共感するとともにその違いを明確にし、議論を通してそれらをまとめられる能力」を身に付けさせる。</p> <p>課題研究に取り組ませることで、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」「コミュニケーション能力」「リテラシー」「英語力」「日本人としてのアイデンティティ」「異文化理解力」を身に付けさせることを目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>高経大、経営支援クラブ等と連携した「オーナープログラム」により成果をあげているが、取組内容をブラッシュアップし、海外に拠点をおく高崎市内の企業との新たな連携により、より体系的・発展的な課題研究「日本企業の海外戦略」を設定した。これを3年間取り組むことで、目的・目標の達成を目指す。なお、研究開発の仮説は以下のとおりである。</p> <p>ア 学生との共同作業【高大コラボゼミ】によりロールモデルができ、視野が広がる。</p> <p>イ 海外進出している企業の研究、海外拠点の訪問により、グローバルな視点を得られる。</p> <p>ウ 文系オーナーの選抜方法を開発することで意欲を高め、維持できる。</p> <p>エ 高経大との連携により高大接続に必要な要素を見つけることができる。</p> <p>オ 評価のための項目と尺度を開発することで効果的にプランを改善できる。</p> <p>カ 課題研究に取り組む中でコミュニケーション能力が向上する。</p> <p>キ 郷土の伝承文化を学ぶことで日本人としてのアイデンティティが確立できる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校のWebページ上にバナーを作りSGHの研究開発について紹介をする。 高経大で、高校生、大学生、民間企業等を一堂に会した成果発表会を行う。 SGH版の合同成果発表会をつくり、社会科学・人文科学分野の課題研究の取組を広めていく。また、海外の姉妹校と課題研究の成果について英語で成果発表会を行う。 					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 高校・大学・産業界との連携により「<u>日本企業の海外戦略</u>」を体系的・発展的に研究する。<u>1年は「高崎市内の企業の海外進出等の現状と課題」、2年は「日本の大手企業の仕組みと評価方法」、3年は「日本企業の海外戦略の現状と課題」</u>をそれぞれのテーマとして課題研究に取り組む。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 1年は、海外展開（中国・ベトナム・タイ）している高崎市内の企業「キンセイ産業」「昭和電気鋳鋼」「秋葉ダイカスト工業所」「サイトウティーエム」と連携する。社長からの講義及び課題提示、ディスカッション、工場見学などを行う。 2年は、8か月間、本校生約40名が、高経大経済学部/平井裕久准教授の指導の下、平井ゼミの学生と「日本の大手企業の仕組みと評価方法」をゼミ形式で事例研究を行う。 なお、研究の動機づけの具体的方法として「日経 STOCK リーグ」での入賞を目指す。取組について報告書を作成し後日成果発表会を行う。 3年は、6か月間、本校生約40名が、高経大経済学部/矢野修一教授の指導の下、矢野ゼミの学生とグループをつくり「日本企業の海外戦略の現状と課題」というテーマで指定された企業についてゼミ形式で課題研究を行い、8月下旬に本社を訪問し直接海外戦略の担当者からの説明を受ける。報告書を作成し後日成果発表会を行う。 学校全体で、外国人生徒の受入に努め、海外への研修に積極的に参加することを促す。1,2年は、米国や韓国の研修旅行に参加を促し、そこで金融街や証券取引所などの視察およびインタビューを行う。3年は、課題研究の対象企業の海外生産拠点や販売拠点への現地視察を行う。米国はもとより、英語圏以外の企業や姉妹校等へ積極的に働きかけることにより、取組内容を充実させる。 評価は、項目・尺度を開発して実施後にアンケート調査を行う。感想文・レポートを提出させる。それにより対象生徒の状況をつかむ。発表については教員の評価だけではなく、自己評価、生徒相互評価を行うとともに、結果のフィードバックを早くする。 実施の取組はPDCAサイクルにより常に工夫改善しその内容を次年度に反映させる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 高経大経済学部/名和賢美准教授とTAから小論文、プレゼンテーションなどの表現技法を学ぶ。また、高経大地域政策学部/佐藤公俊教授、味水佑毅准教授及びそれぞれのゼミ学生から、ディベートの趣旨、ルール、実施方法などについて学ぶとともに、学生に実践相手となってもらいディベート力の向上を図る。 評価についてはアンケート調査、提出された作品、実習の時の出来具合で行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>○ 日経主催/2012年度 第13回「日経 STOCK リーグ」1次予選通過3チーム、うち1チームが2次予選通過し入選 2013年度 第14回「日経 STOCK リーグ」1次予選通過5チーム(1月下旬時点)</p> <p>○ 日経主催/第11回「全国学生対抗円ダービー」18位、および「ユニーク賞」</p> <p>○ 読売新聞社等主催/2013年第18回「全国中学・高校ディベート選手権」関東甲信越地区大会「奨励賞」</p> <p>○ 英検：2級61名、準2級478名（平成25年11月現在）</p>

ふりがな	たかさきしりつたかさきけいざいだいがくふぞくこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	高崎市立高崎経済大学附属高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:	人	239人	人	人	人	人	人	144人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の全員、それ以外の生徒の20%を目標とする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	36人
	SGH対象生徒以外:	33人	31人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の30%、それ以外の生徒の2%を目標とする。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	%	29%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 学校全体で約45%の生徒が将来国際的に活躍したいと考えるようになることを目標とする。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	12人
	SGH対象生徒以外:	人	10人	人	人	人	人	人	7人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の10%、それ以外の生徒の1%を目標とする。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	14%	17%	%	%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: 学校全体で、現状から10%増を目標とする。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	30%
	SGH対象生徒以外:	12%	9%	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の30%以上、それ以外の文系生徒の20%を目標とする。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	2人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の5%が海外大学へ進学することを目標とする。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	85%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の85%以上が、課題研究を進路選択に結びつけて考えることを目標とする。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHに取り組む生徒の50%、それ以外の生徒の2%を目標とする。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHIに取り組む生徒の全員が参加することを目標とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	0人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHIに取り組む生徒の全員が参加することを目標とする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	3校
目標設定の考え方: 現在交流のある海外の高等学校と課題研究に関する連携を行う。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	420人	420人	人	人	人	人	人	420人
目標設定の考え方: 現在行っている連携事業を、同様の規模で継続する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	15人	15人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 現在2・3年が行っている課題研究を1学年でも実施する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	110人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 文系オナークラスでSGHIに取り組む生徒の全員が参加することを目標とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	24人	114人	人	人	人	人	人	150人
目標設定の考え方: 今年度の実績の30%増を目標とする。								
先進校としての研究発表回数								
h	2回	3回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 1・2学年は年2回、3学年は年1回の発表を目標とする								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方: 行事やSGHの取組について、外国語のホームページでも紹介できるよう整備する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	832	833	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							